



みずみどり

2023年 12月1日 第159号

発行：いたばし水と緑の会事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会
<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>E-mail : mizumidori@nifty.com

〒174-0063 樹海区前穂町5-31-7 瀬田方

トンボ池の今とこれから

2023年は「現状維持からもう一歩」。「カムバックーヤゴ・オタマジャクシ」で試行しました。

1) 底のヘドロを除去し畔を直しました

ヘドロを掻き出し、放置して乾いたヘドロ（土）を土嚢に入れ、壊れた畔を直し、上に土をのせて叩いて補強しました。毎年夏にはプランクトンの膜が浮いて不快な状態だったのですが、今年はプランクトンの発生はありませんでした。ヘドロを除去した効果はありましたが、作業は重労働です。池底を干すことは、池底の生き物（もしヤゴなどがいたら）にダメージを与えます。

2) オタマジャクシがカエルになって上陸しました。

毎年カエルが産卵に来て、オタマジャクシが生まれますが、オタマジャクシを狙ってカルガモが毎日飛来し、徹底的に探して、残らず食べていきます。カルガモ対策に池の一部にネットを張り、たまたま運よくオタマジャクシの保護に成功しました。かわいい豆ガエルが上陸しました。

3) 11月、大きくなった木の幹と枝を切りました。



野鳥が糞と一緒に落とした種が芽生えて育ったミズキの大枝と、アカメガシワのひこばえを切りました。ひとりでに生えてきた木はどんどん大きくなり、切るのも、切った後の枝を処理してまとめるのもやっかいです。

昨年ザリガニを400匹捕獲したけど 効果はあった？

昨年7月末から10月末までで400匹のザリガニを捕獲しました。今年はその効果が出て、ザリガニはほとんどいなくなっているのでは、と期待しました。

8月、小ノ澤さんが「やっぱりザリガニはいますよ」と言われ、池底にはうごめくザリガニ。あーやっぱり。小ノ澤さんは1か月で赤い大きなザリガニを100匹近く捕獲。

環境省のホームページでは、ザリガニを放された池ではヤゴなどの水生生物がいなくなってしまうこと、根気よく駆除することが大切と書かれています。それは私もよくわかっています。

根気よくと言われても、蚊に刺されるし、暑い。もっと知的で楽しいことをやりたい。成果が見えないのに「根気よく」と言われてもねえ。駆除はザリガニの殺生。私も悩みます。

ビオトープをつくったときに水漏れ防止に使用した粘土とベントナイト（漏水防止剤）が、池底とその上のふわふわ泥になって、ザリガニの住みやすい環境になっていると思います。部分的に砂を混ぜるなど試みましたが、効果はわかりませんでした。抜本的な対策はないものか？

小ノ澤さんの協力で昨年400匹も捕獲したのだから、ザリガニ研究？を続けてみます。

ザリガニ用のトラップ

これまで市販されているザリガニ捕獲用のトラップをいろいろ使ってみました。高さが20cm以上あり、今の池では浮き上がってしまいます。重りを入れて沈めたらと言われましたが、中に泥がたまって、ザリガニは利用しない。また開口部が6cmあり、ザリガニが出たり入ったりできます。私は活用できませんでした。

インターネットにペットボトルでザリガニを釣ったという自慢話が出ていました。

ゴミ置き場で2リットルのペットボトルを拾ってきて工作してエサを入れて池に沈めてみました。なんと11匹かかりました。欲張ってトラップを3個にしてやってみたら、なぜかほとんどかからない。新しいトラップが好きなのか、ザリガニが何を考えているのかわかりません。コツがあるのかわかりませんが、私も意地になって場所を変えてり、形を考えたり・・・。

お楽しみでザリガニを捕まえるにはペットボトルはいいかもしれませんが、駆除目的に使用するには弱い素材です。数匹は入るが、エサやザリガニの出し入れがやっかいで、放置すると死んだザリガニが臭く、石鹸で洗ってもにおいが取れない。トラップは2、3回使用すると破れるし、いろいろやってみて、作業性がよく、破れにくいトラップが写真です。

- ① ペットボトルの飲み口は2cmしかありません。ザリガニはハサミを「前にならえ」にして徐々に小さくなる穴に向かって進み中に入り、中から外へは出られない。開口部を大きくする必要がなかった。
- ② エサの出し入れ等のため底を開閉できるようにした。また放置すれば、トラップは壊れにくく、作業は楽だが、ザリガニは新しいトラップをより多く利用するように見える。
- ③ トラップを黒っぽい布で覆った（越冬用穴として秋から冬に利用しないかなあとと思って）。
- ④ エサはスルメは使いやすいが高い、煮干し、死んだザリガニも使用した。

⑤ ザリガニと関係ない話ですが・・・

ペットボトルは以前に比べて薄く軽量になっていました。ボトルが軽量になってもペットボトルの排出量（重量）は減っていないようです。リデュースが進まないのは残念です。



10月末までで捕獲したザリガニ数は

トラップには、大きな赤いザリガニや中（5cm位）もいましたが、小（3cm位）も多かった。10月末でトラップと釣りによる捕獲数は約350匹

11月から池の落ち葉をさらう 水の中にいた生き物はザリガニだけか？

11月から崖下にあるトンボ池には枯葉が落ちて池底で腐るのでこまめにすくいあげています。同時に生き物がいないかもチェックします。スジエビがときどきかかります。誰かが放した小魚も1匹。よく探してもヤゴは0、ほとんど全部がザリガニ。5cm位の中サイズから、3cm位の小、さらに2cmのミニまで（ミニは丸くなると1cm）、あらゆるサイズのザリガニが落ち葉の下で越冬するのです。大きなザリガニは落ち葉の下にはいません。彼らは穴を掘って越冬します。落ち葉の下のザリガニがすべて生き残るとは思えませんが、いろいろな成長段階のザリガニがいる一すごい繁殖力、駆除しようとすること自体「馬鹿か」と思われますね。

この冬のトンボ池の作業を考えたい

ここは自然の場所ですが、美術館前の一等地なので毎年お正月前に枯れ草を刈りきれいにします。

12月には、現状を観察して、それぞれが好きなおとこ、嫌なおとこなどを出し合っ、体力の限界があるなかで、どうしたらよいか、考えましよう（坂本 郁子）。

赤塚探検隊が開催

11月19日（日）板橋区みどりと公園課主催で「赤塚体験隊」が開かれました。小学低学年の親子が対象で、当日はトンボ池の中に入り、環境政策課の鈴木さんが説明され、生き物（ザリガニ）を採取し、トンボ池の縁で咲いていたキチジョウソウを観察し、水質調査をしたり、湧き水が出ているところを見たり・・・などの後、活動の場は植物園に移り、観察、芋掘り？と掘った芋を食べるなどの盛りだくさんな活動だったそうです（見物した小林さんの話）。

行政主催でトンボ池や湧き水の観察会が開かれたことは20年来なかったこと。別々の部署が連携して実施されたのもうれしいし、開催にあたって、みどりと公園課と環境政策課の職員の方が何度もビオトープの下見や調査に来られ、それもありがたいことだと思いました。

赤塚公園どんぐりまつり

10月7日（土）赤塚公園サービスセンター前でどんぐりまつりが開催され、いたばし水と緑の会はミニ観察会とミニ展示で参加しました。

ミニ観察会「どんぐりの森で自然のたからものを探そう」は、今年で6回目です。

武蔵野崖線の下に湧く湧水、斜面林を下から眺め、今度は斜面の上に出て、野草や木の実を見つけながら歩く散歩コースです。斜面の中を歩く山道は、クヌギの樹液に「オオ



スズメバチがいるので注意」の看板があり、今回は避けました。どこを歩いても毎回新しい発見があっ、私たちも楽しい観察会です。

ミニ展示では、今年木の実の展示をしました。「食べられる木の実はどれですか」のクイズ付き。イベントに来る参加者は親子連れで幼児が多いので、なんでも触ってみます。生き物に比べて木の実はさわったときのワクワク感がイマイチだったかも。大人の

人たちは「なつかしい」と興味深く見てくれました。種や木の実には、植物が子孫を残す工夫が凝らされていて、植物はえらいなあと、その知恵に感心するばかり、もっと注目してほしいです。

昨年は観察会の案内が放送されたので、参加者は30人以上でしたが、今年は事前のお知らせを見た家族連れが2組で残念でした。志村坂上と三園から参加され、初めて歩いた徳丸が丘緑地の、東京とは思えない自然に感激されました。ドングリや松ぼっくりだけでなく、ゆっくり歩きながらイヌシデやモミジの種などを観察、そうそう、あちこちでサクラの狂い咲きが見られました。松林で子供が「マツタケが生えている」と大声。松林なのにマツタケを想像もしなかった私たちは文明人ですね。若いお父さんとお母さん達ですが、子供のころ野山で遊んだ経験から子供達にも自然の中で遊ばせたいとのこと。区外に出かけなくても近いので、時々遊びに来ますとのこと。



崖下から湧く湧水はコンクリートの水路から、流れになって近くの池の水源になっています。今年もクレソン（写真）が茂っていましたが、水辺や湿地の雑草はあまり多くありませんでした。



ゆるやかな坂を上って崖上にでると、武蔵野台地です。住宅が広がっていますが、まだ畑も残っています。畑の奥に見えるのが、赤塚公園の森です。崖地の上（公園の南側）は日当たりのよい明るい広場や散策路。崖下は標高10m、崖上は約25m、標高差は15mですがちょっとした山の気分になれます。

ネズミモチとトウネズミモチ

過去に会報で篠原先生や林さんが書かれたテーマです。最近トウネズミモチの繁栄ぶりが目についたので、再度書いてみました。

写真下は徳丸緑地の崖上の日当たりのいいところにブドウの房のような実（1cm位）をたくさんつけていた高木です。中国から来たネズミモチの意味で、トウネズミモチと言われます。

常緑で成長が早く大気汚染にも強いので、公園などに多く植えられ、熟した黒い実は野鳥のごちそうです。あちこちに野鳥の糞と一緒に落ちた種が芽生え、気が付くと大木になっています。

日本に昔からあるネズミモチは庭や生け垣などに植えられ、あまり大きくなりません。葉がモチノキに似ていて、実がネズミの糞に似ることが名前の由来です。最近ではネズミの糞を見たことがない人がほとんどですが、昔は見慣れたものだったから「ネズミの糞のような実」という名前がついたのでしょよね（写真は11月撮影で実は熟していない緑色）。

トウネズミモチは在来のネズミモチとよく似ていますが、木が大きくなること、実がたくさんつくこと、葉が一回り大きいこと、そして決め手は葉を日にかざすと葉脈が透けて見えることです。トウネズミモチは、「透ネズミモチ」と覚えるといいですよ、と教わりました。

日本に自生するネズミモチの写真を撮ろうと探したのですが、低木のネズミモチかと思うと芽生えたトウネズミモチの若い木だったりして、ネズミモチが少なく、トウネズミモチが増えているように思いました。地味な木ですが、探すとあちこちにあり、葉をちぎって透かして葉脈を確認するのも楽しいですよ（写真右）。



11月ごろは実はまだ緑色ですが、だんだん黒くなってネズミの糞色になります。そして冬の間に野鳥に食べられ、春にはなくなっています。



写真左は、在来種のネズミモチです。実はトウネズミモチに比べて細目でまばら、トウネズミモチに負けてしまいそうですね。

トウネズミモチは要注意外来生物に指定されています。

観察会に参加された方のおばあさんが黒い実を煎じていたそうです。この実は中国では強壯剤とされています。

バッタ広場の手入れ



9月に入っても暑かったり、前日雨だったり、活動参加者は少なく、低調、心細い状態でした。

11月は地域活動入門講座の受講生が実際に活動に参加される「活動体験」で12日に4人、25日に3人が参加されました。25日には、会から小林、不破、清水、坂本が出て、女性ばかり7名。木を切ったり、笹を切ったり、切った枝をシュロ縄でぐるぐる巻きにして圧縮し堆肥置き場に。ササも同じように堆肥置き場に。ここでは、ミ

ミズ、ダンゴムシ、ゴキブリなどが、分解してくれる自然の循環を紹介。オオカマキリの卵が2個見つか、ジョロウグモが破れた網に残っていました。11月は、ヤブ状になっていたバッタ広場を中央から少しずつ広げるように切ったり刈ったりして、すっきり、広々しました。

帰りがけに不破さんがセスジツユムシを発見。島田さんがトンボ池の大きな枝を1本切ったので、枝を長さ1m位に切ってシュロ縄でぐるぐる巻きにして処分は公園にお願いすることにしました。

活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は 坂本まで 090-4618-1295

1 赤塚城址ビオトープちょっと観察と手入れ（第2日曜日）（どなたでも）

赤塚城址周辺は自然が豊かなところです。生き物達の環境を守る活動を体験しませんか。草や土に触って自然を感じてね。生きものは観察したら元いたところに返します。ササ刈り等の作業をやります（カマは用意します）。

12月10日（日）10:00～11:30

1月14日（日）10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：汚れてもよい靴と服装・作業手袋、あれば図鑑、虫眼鏡など、

2 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ（第4土曜日）

12月23日（土）10:00～11:30 トンボ池の草刈り（雨天は翌日）

お正月の前に枯れ草等を除去して見た目もきれいにします。

1月27日（土）10:00～11:30 バッタ広場

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

汚れてもよい靴と服装で。作業手袋、

3 日暮台公園と樹林地の観察（第1土曜日） 日暮台公園前集合

12月3日（日）10:00～11:30

1月7日（日）10:00～11:30

2月4日（日）10:00～11:30

4 かんきょう何でも見本市に出展します

日時：2月1日（木）9:00～2月29日（木）12:00

場所：エコポリスセンター地下1階

パネル展示だけですが、水と緑の会の活動フィールドの自然を紹介しています。

設営1月30日（火）10時からにお手伝いください。内容をみんなでチェックします。

●ビオトープボランティアの参加を歓迎します。ご意見や自然情報もお寄せください。

ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があって楽しいですよ。不定期ですが区外の自然や保護活動の見学も実施しています。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。